

# 見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

発!

June 2025 vol.134

| June |    |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|----|----|----|
| S    | M  | T  | W  | T  | F  | S  |
| 1    | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  | 7  |
| 8    | 9  | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15   | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22   | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| 29   | 30 |    |    |    |    |    |

## ◆大蔵寺（津浪流倒記）

所在地：三重県志摩市志摩町越賀

交通：近鉄志摩線「賢島」駅からあご湾定期船

志摩半島の南端、太平洋に面する先志摩半島（前島半島）は、内湾にリアス式海岸が発達し、真珠の養殖がさかんな英虞湾を抱える風光明媚な地域です。半島先端には環境省の「快水浴場百選」にも選定された御座白浜海水浴場があり、観光地としても人気で、賢島との定期船も運航しています。英虞湾と太平洋は、「深谷水道」と呼ばれる運河でつながっており、水産庁が選定した「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選」に、志摩漁業の土木遺跡の1つとして選定されています。

太平洋に面し、英虞湾を守る堤防のような地形となる先志摩半島では、南海トラフ地震により、繰り返し大きな津波に襲われてきました。半島先端に近い越賀地区では、昭和19(1944)年昭和東南海地震で、4mの津波が襲いました。また、嘉永7(1854)年安政東海地震では、昭和東南海地震と比較して2倍を超える9mの津波が襲い、その1つ前の宝永4(1707)年宝永地震でも、安政東海地震と同程度の津波が襲ったとされています。三重県の津波浸水予測図をもとにした志摩市のハザードマップによれば、津波の影響を受けやすい越賀地区では、最大26mの津波が到達し、20mを超える浸水となる場所もあるとされています。

安政東海地震で高さ9mの大津波に襲われた越賀地区では、津波が500mから600mほど内陸まで入り込み、死者3名、流失家屋21戸、流失船舶41艘等の被害が発生しました。越賀の大蔵寺にある「津浪流倒記」は、地震翌年

の安政2(1855)年5月に建てられたもので、海底が見えるほどに潮が引いた後に大津波が襲った地震時の様子とともに、地震のあとは火を消し、老人子供はもちろん、食料を持って早々に高所へ逃げる、欲に迷えば身命が危ういと平時から心得ること、などの教訓が記されています。

また、安政東海地震時の越賀港には、神島村の漁船17艘が帰村の途中で入港しており、これらの漁船が津波に遭遇しました。17艘の漁船には合わせて68人が乗り込んでいましたが、このうち14人が溺死、6人がケガをし、実に14艘が破船したとされています。村では藩庁の許可を得て、溺死者を共同墓地に埋葬することとしました。越賀共同墓地には、遭難した神島村の漁師を慰霊した「神島墓」が設置されています。墓の左面には「明治13年庚申8月建」と刻まれており、27回忌に建立され、神島村の遺族が法要を営んだものとされています。また、昭和49(1974)年6月には、神島漁業協同組合により、神島墓と合わせて「神島海難者供養塔」が建立されました。供養塔の側面には、大地震大津波による神島漁船難破十四人の霊を吊う、と記されています。



(左) 津浪流倒記



(右) 神島墓と神島海難者供養塔 (奥) (国土地理院 HP より)

中部災害アーカイブス「地震・大津波の痕跡、教訓から学ぶ」の記事 ([http://www.cck-chubusaigai.jp/jishin\\_syousai.php?id=51](http://www.cck-chubusaigai.jp/jishin_syousai.php?id=51)) もぜひ併せてご覧ください。



◆災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。



## ◆見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち バックナンバーから

### ●伊古部海岸 (vol.86,2021.6)

所在地：豊橋市伊古部町

交通：豊橋鉄道渥美線「大清水」駅 南東 約 6km

豊橋市の伊古部海岸は、遠州灘沿いに浜名湖から渥美半島の伊良湖岬まで続く、表浜と呼ばれる長大な海岸線の一部となっており、砂浜と海食崖、海岸林の雄大な風景が広がり、アカウミガメの産卵場所としても貴重な海岸で、夏場は遠方からサーフィンに訪れる人も多いスポットです。

砂浜のすぐ背後に迫る海食崖は、海底に砂礫や泥が堆積してできた地層（泥層）が地盤上昇によって隆起し、海岸侵食を受けて崖を形成したものです。崖をよく見てみると、西は六連から東は東七根まで、約 10km にわたって泥層が続いていますが、伊古部海岸では、この泥層が約 100m の幅で途切れ、植生に覆われた崖になっています。これは、嘉永 7(1854) 年の安政東海地震の際に崩落した跡とされ、

強い揺れで海食崖の一部が崩落したと考えられています。

これを裏付けるように、明治 31 年頃に奉納された伊古部神社の絵馬には、崖の崩落の影響が残る様子が描かれています。崩落により、土砂は 800m 沖合まで流れ込んだとされ、この絵馬には、土砂が流れ込んだ位置に泥層の塊と思われる暗礁が描かれています。また、この暗礁に地引網が引っかかるので、伊古部の漁民たちが、和地の漁師に頼んで爆破してもらった記録も残されています。

関連した史跡として、すぐ近くのささゆりの里に、震災鎮めの石碑もあります。この場所には、安政東海地震で高さ 29 m もの大津波が襲ってきたとの言い伝えがあり、碑は地震から 5 年後の安政 6 年に、地元の網元の方が震災が二度と起きないことを祈って建てたものです。



◆詳細は、見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち vol.86 (<https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/rekishijishin/geppo.html>) をご覧ください。

## ★潮かけ祭り

潮かけ祭り（大島祭）は、海の安全を守る女神・市岐島姫命が、年に一度、志摩町和具の八雲神社から、沖合約 2.5km にある大島の祠へ里帰りすることを祝う祭りで、和具漁港魚市場周辺において、毎年旧暦 6 月 1 日に開催されます（2025 年は 6 月 25 日（水））。海の安全と大漁を願う神事とともに、船や人々が海水をかけ合う奇祭としても知られ、約 800 年の歴史があります。

神事では、ご神体を乗せた船と漁業関係者が大島にわたり、地元の魚介類を神前に供え、海上安全と豊漁祈願が行われます。その後、船が和具漁港に戻ったところで、船に向けての潮かけが始まり、祭りはクライマックスを迎えます。当日は、みこしや太鼓、ステージイベントや夜店の出店があり、花火大会も盛大に行われ、大いに賑わいます。



伊勢志摩観光ナビ HP より

### ～船で巡る～

あご湾定期船は、志摩マリンレジャー株式会社が運営する定期航路で、賢島から先志摩半島の和具までを約 25 分で結び、1 日に往復各 9 便が運航しています。



志摩マリンレジャーHPより

英虞湾ではこのほか、大型観覧船「エスペランサ」で約 50 分かけてクルージングする「賢島エスパーニャクルーズ」や賢島遊覧船組合による「あご湾島めぐりクルーズ」も就航しています。

### ●ブレイクタイム●

#### ♪ 英虞湾

伊勢志摩国立公園の一部をなす英虞湾は、リアス式海岸が有名で、さまざまな形の島や半島が美しい海岸線を織りなしています。奈良時代から真珠の出荷が行われていたとされ、近年では養殖真珠の一大産地にもなっています。湾奥に位置するともやま公園を拠点に、英虞湾に浮かぶ無人島を周遊できるシーカヤックツアーなどのアウトドアイベントが開催されているほか、湾内の離島・間崎島で、1 日 1 組限定の「離島キャンプ&サウナ」を楽しむこともできます。



伊勢志摩観光ナビ HP より

◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、[gensaisan2014@gmail.com](mailto:gensaisan2014@gmail.com) まで情報をお寄せください。

◆この地域の歴史災害記録をオンラインツアー形式、マップ形式で紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『災と Seeing』のホームページ (<https://www.saitoseeing2020.jp/>) をぜひご覧ください。

(発行：減斎の会・名古屋大学減災連携研究センター 2025 年 6 月)

